

ミライクNews vol.8



11月に開催される日本女性会議2020あいち刈谷（ミライク会議）に向けて、学生ジャーナリストたちがオンラインで取材した内容を紹介します。

今号は、新型コロナウイルス感染症へ不安を抱えながらも、実際に働き、家事や育児に奮闘する家族にインタビューしました！



笹刈智さん、ちはるさん

地元の企業に勤める智さんは4月から在宅勤務を週2日程度取り入れ、ちはるさんは平日にパートとして勤務。共働きしながら2児の子育てに励んでいます。

家族時間をもっと楽しく

智さんが家にいる時間が増え、家族で近所の公園にピクニックに行くなど、のんびり過ごすことができたそうです。また、4月から農園の一角を借り、以前からやりたいと思っていた野菜栽培を本格的に始められたとも。「食育も兼ね、これを機に子どもたちが苦手な野菜を克服できたらいいな」、「三密を避けながら、子どもたちとのんびりと有意義な時間を過ごすことができてうれしい」と話してくれました。

家事・育児はワンチームで！

「家事や育児の分担意識はなく、一方ができなかったことをもう一方がフォローするようにしている」と話す笹刈さんご夫婦。在宅が多くなった智さんが家事や育児全体の8割を行うこともあるそうです。「家事を行う際、感謝や見返りを求めるのではなく、『自分のため』という気持ちを大切にしている。日々の感謝を忘れず、負担にならないようにこれからも支え合いワンチームで頑張りたい」と笑顔で話してくれました。

思いやりこそ家事・育児の秘訣！

黒木さんご夫婦は、普段の生活の中であまり意識的に家事や育児の分担をしたことはないそうです。「妻がいなくては僕の仕事は成り立たない」「子どもと楽しく過ごせているのは夫のおかげ」と日頃の感謝を伝え合っていました。

佳大さんは仕事が忙しい中でも、気付いた時にできることをするようにしているそうです。相手を責めるのではなくお互いに思いやるのが、黒木家流の家事や育児を行う秘訣のようです。

子どもたちと触れ合う時間

「自粛期間を通して、子どもたちと過ごす時間や触れ合う時間が増え、絆をより深めることができた」と話す黒木さんご夫婦。佳大さんは「指を使って数字を数える、一緒にしりとりを行うなどゲーム感覚でコミュニケーションを図る時間が取れた」と話します。

「時には喧嘩してしまうこともあるが、子どもたちが笑っている姿を見ることが癒やしになっている」と知子さんも笑顔で話してくれました。



黒木佳大さん、知子さん

佳大さんは生命保険会社で、知子さんは両親が営むお店で勤務。お互い仕事をしながら、3児の子育てに奮闘中です。

★笹刈さんご夫婦のインタビューを通して…

自粛期間を悲観的に捉えるのではなく、今だからこそできることに積極的に取り組み、とても充実した生活が送れたという話が印象的でした。インタビュー中も笹刈さん家族の愛が伝わってきました。

(学生ジャーナリスト 鈴木香穂、鈴木里奈、山本真帆)

★黒木さんご夫婦のインタビューを通して…

普段は仕事が忙しく子どもたちとの時間が取れない分、「ステイホーム」を上手く利用し家族の絆を深めたエピソードをたくさん聞くことができました。ライフ・ワーク・バランスについて、ミライク会議でさらに深めていきたいです。

(学生ジャーナリスト 太田泰雅、鈴木愛乃、中島祥那、樋口大河、山本真帆)

この続きは、ミライク会議（11月13日～15日）に参加して考えましょう！

申込方法などは、P6～7をご覧ください。